人間工学専門家の位置づけと方向性

ービジョン案と施策ー

○福住 伸一（理化学研究所AIPセンター/CPEJ機構長）

鳥居塚 崇（日本大学生産工学部/CPEJ副機構長）

横井 元治（本田技研工業(株)/CPEJ事務局長）

藤田 祐志（国際人間工学連合）

Position and direction of Certified Professional Ergonomist

-Vision and policy-

Shin'ichi Fukuzumi (Center for AIP, RIKEN / Chair of CPEJ),

Takashi Toriizuka (College of industrial technology, Nihon University / vice chair of CPEJ),

Motoharu Yokoi (Honda / Secretary of CPEJ),

Yuushi Fujita (International Ergonomics Association)

1. 検討の背景

人間工学専門家資格制度が発足して15年が経過し、2019年4月12日時点で、367名（専門家223名、準専門家123名、アシスタント13名、シニア8名）が有資格者となっている。

これらの人はそれぞれ専門家として多方面で活躍し、人間工学の普及に貢献している。しかしながら、これらの人の貢献がなされていることと、資格を保有していることは、必ずしも一致していないと考える。

有資格者に専門家資格取得の理由を聞くと、ビジネスに役立てているという回答がある一方で、周りに言われたからとか、とりあえず資格を取得しておけば使えるかもしれないからとかといった回答も多く、資格を保有することのメリットも曖昧であるのが現状と考える。

表1に示すように、現CPE資格の有資格者367名中人間工学会(JES)の会員数は202名で全体の15%弱である。一方、有資格者の内訳をみると、約45%は非JES会員であり、JES会員以外でも資格に興味を持ってもらえることが分かる。このことから、人間工学専門家認定機構(以下「機構」という)は、機構の対象範囲を人間工学会に加えて、他学会や海外にまで視野を広げ、その中での自分たちの位置づけ、目指す方向を明確にする必要があると考える。

そこで、本総会では、機構としての目指す方向性（ビジョン）案を作成し、これからの機構の活動もそのビジョンを実現するために実施していく考えである。なお、このことについては、まだ議論が始まったばかりである。機構の多くの人から

意見を聞き取り、できるだけ早く多くの人の賛同を得られるビジョンとして仕上げたい。

表1 CPEJの会員構成

	① JES 会員数 [人]	② CPEJ 会 員数[人]	③ ①に占め る②の割 合[%]	④ ②のうち JES 会員 CPEJ の 割合[%]	⑤ ②のうち JES 非会 員 CPEJ の割合[%]
北海道支部	32	5	15.6	60.0	40.0
東北支部	50	3	6.0	100.0	0
関東支部	748	212	28.3	58.5	41.5
東海支部	122	20	16.4	75.0	25.0
関西支部	243	86	35.4	40.7	59.3
中国・四国支部	99	32	32.3	50.0	50.0
九州・沖縄支部	67	9	13.4	66.7	33.3
合計	1,361	367	27.0	55.0	45.0

2. 機構のビジョン（案）

新たに掲げる機構のビジョン（案）は以下のとおりである。

「機構は、教育機関・研究機関・営利事業体などさまざまな組織・領域の人間工学の専門家から構成されており、その構成員（有資格者）の目指すところは、

- ① 各々の専門分野において自らの能力を高めるために研鑽を重ねる姿勢をもった人に加え、
- ② 人間工学を中軸とした総合的、学術的、実務的指導や、全体を俯瞰した視点から人間工学を導入してプロジェクトの遂行になど大きな寄与ができる人とする。

機構としては、新たに、前記②のタイプの専門家を育成・研鑽できる仕組みを構築・提供する機会を提供することに取り組み、専門家の立場から人間工学を普及・発展させる」

例えば、機構事務局に届く人間工学的支援にかかわる問い合わせに対応できる人や、あるプロジェクトの中で人間工学的視点が必要な場合、プロジェクトに入り込んで他のメンバーとともに活動し、求められた成果を創出できるような人が育つ仕組みを構築・提供することなどである。

前記②の観点から見ると、現状の試験方式では、人間工学の専門家として最低限の知識と経験を有する方が合格者となっており、現時点では、機構の全ての会員が、②に該当するわけではない。そのため、今後機構では、多くの会員が、この目指すべきひとつの姿に近づくためのフォローアップなどの支援に取り組みたい。

技術は、休むことなく進歩することを考えると、このフォローアップは、繰り返し、継続的に行う必要がある。具体的内容は、今後の議論を反映して行く必要があるが、従来行ってきたセミナーやサロンにおいて、前記②に該当する人の知識、経験、ふるまい等を機構会員間で共有するとともに、会員が活躍できる場が増えるよう、外部への働きかけを段階的に行う。

また、会員に限らず、すでに機構のビジョンを実践している人をロールモデルとして紹介することも必要であろう。

3. 施策

前述のビジョン（案）を、議論を通じて作り上げていくが、達成に向けた機構としての施策は概ね会員向けと対外的な活動である。具体的内容は今後詰めていくことになるが、概要を以下に示す。

1) 専門家が活躍できる場の提供

これまでのJESシンポジウムなどで、CPEとしての成功体験を話された方も多くいらっしゃるのので、そのような情報をまとめて提供できるようにする。また、インパクトがあるような成果はメディアを通じて広めていく。また、新たな活躍の場を開拓するために、多方面と協業していく。

2) 会員のレベルアップに向けて

機構の資格取得者は、専門家として活動していくことができるレベルに達していることを意味するが（エントリーレベル）、資格を取得したあとも継続的に研鑽を重ねる必要がある。そこで、機構として機構会員に自己研鑽の機会を与えて、人間工学に関するコンサルティングや、プロジェクトの遂行に大きな寄与ができる専門家になるように支援する。

3) 新規会員開拓

- ・ JES 内への周知：全国大会、支部大会で、機構の解説や、機構のビジョンの説明を行う。
- ・ JES 外へのアピール：学会やイベントの協賛をとおしたアピールを行う。さらに、機構の価値や、その活動成果を他学会で発表する。

これらをすぐに同時にすべて対応できるわけではないので、ビジョンそのものの議論と平行してできるところから手をつけるが、そのためには、機構会員全員が共に考え、行動することが不可欠である。機構会員の協力を要請したい。

施策の具体化についてもこれから多くの意見を参考に詰めていくこととなる。

4. 考察

人間工学専門家資格制度が発足して15年が経過した現在、表1が示すように、JES会員以外の機構会員数が機構会員の半数近くを占めることは、質の高い人間工学を普及する観点から好ましい傾向にあることが示されたといえよう。海外に目を転じると、アジアや、南米諸国で人間工学専門家認定制度に対する関心が高まっている。IEAは、これら関心の高まりと時を同じくして、人間工学を中軸とした総合的、学術的、実務的指導や、全体を俯瞰した視点から人間工学を導入してプロジェクトの遂行に大きな寄与ができる専門家の育成に取り組もうとしている。これらに勘案すると、機構が新たなビジョンづくりに取り組む時期であるといえよう。

本ビジョンは本年4月17日に行われた機構の年次総会で提案され、機構構成員の目指すところが2つあるということが承認された。今後、構成員がこのビジョンを共有し、さらに活躍されること、また、多くの人間工学に関わる人が、このビジョンに共感し、資格取得をすることを願う。